



日本における経営者企業の発展

森川英正

I

経営者企業 managerial enterprise は、Alfred D. Chandler, Jr. が作り出した概念である。それは、「創業者の家族あるいは金融機関の代表者たちがもはやトップ・マネジメントの意思決定を行うことなく、そのような意思決定は（その企業の）株式をほとんど所有しない専門経営者 salaried managers によって行われる企業」と定義することができる。

経営者企業は、創業者とその家族がトップ・マネジメントの意思決定を行っている家族企業 family enterprise、数多くの株主の中でぬきんでた大量の株式を所有する1人ないし少数の大株主がトップ・マネジメントを掌握する大株主企業、および銀行その他の金融機関に管理された金融管理企業 financially dominated enterprise と対立する概念である。

Chandler は、この経営者企業は、19世紀後半からアメリカで発展を開始し、ヨーロッパや日本にもひろがっていったと見る。また、彼は、経営者企業によって支配される経済体制を経営者資本主義と名づけ、アメリカでは、第一次大戦前までに経営者資本主義の時代に入ったと述べた。

ただし、Chandler は、企業の規模や経営状態のいかんにかかわらず、経営者企業が発展するとは言っていない。大企業、それもたんに規模が大きいというだけでなく、数多くの異なった種類の事業ユニット（生産、流通等の事業所）を有し、それらを調整し、制御しうるための階層的経営組織 managerial hierarchy（たんなるハイアラーキーではなく、管理者が管理者を管理する多段階のハイアラーキー）を備えた大企業の中から経営者企業が発展するとした。

30